

高岡市老連だより

2020 1月号
第27号

令和2年1月1日発行

 編集 高岡市老連文化教養委員会
 発行 高岡市老人クラブ連合会

高岡市博労本町4番1号 TEL (23) 7900

Eメール sirouren@aroma.ocn.ne.jp

 ホームページ <http://takaoka-rouren.jp>

16組が熱演
出演者・観客一帯で大盛り上がり！


北部地区(伏木・古府・太田)老人クラブ協議会 「第33回 演芸大会」より





年頭のご挨拶

市老連会員の皆様、明けましておめでとうございます。皆さまにはご家族ともに希望に満ちた新しい年を迎えられ心よりお慶び申し上げます。

日頃より市老連の活動並びに多くの事業にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年は日本列島は度重なる災害に見舞われました。各地で被害に遭われた方々、また犠牲になられた方々には心よりお見舞いと哀悼の意を表します。

さて、市老連は近年、会員の減少と単位クラブの解散という大きな問題を抱え、老人クラブの運営にたいへんな危機感を感じています。

この問題の打開のために昨年は、正副会長会議や各委員会を頻繁に開催して討議を重ねました。魅力ある市老連にするにはどうするかが課題でありました。

まず最初に委員会の改善を決めました。

7つの委員会を4つに再編成して各委員会が事業の見直しと責任ある運営を行うことを決め、六月に単位クラブにアンケートをお願いし市老連に対する意見を集めました。各委員会ではその意見を参考に色々な討議を行いました。

そして十一月より解散した単位クラブ、クラブの空白地域の調査をお願いして、会員増強の対策を具体的に開始しました。

昨年十一月に、埼玉市にて全国老人クラブ大会が開かれ参加いたしました。全国の各地域でも会員増強に取り組んでいて、その体験報告を聞き大変参考になりました。

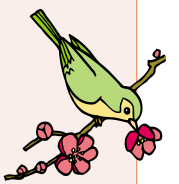
会員の皆様におかれても会員増強による市老連の発展にご協力をお願いいたします。仲間作りは健康作りに繋がります。

仲間と一緒に健康で楽しい毎日を送れるように、会員お一人お一人がお互いに声を掛け合って各地域の老人クラブが楽しく賑やかになっていくようにお願いしたいものです。

本年も皆様の一層のご活躍と益々のご健勝ご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。

高岡市老人クラブ連合会

会長 小山 智克



総務委員会事業報告

委員長 中川 裕行

◆第四十九回 富山県老人クラブ大会 第四十回 富山県老人若返り祭りに 参加

日時 令和元年十月九日(水)～十日(木)
場所 富山県民会館 ホール

「第四十九回富山県老人クラブ大会」が開催され、老人クラブの育成及び老人福祉の分野で功績のあった団体及び個人に対する表彰が行われ、高岡市老連からは次の方々が県老連会長表彰を受けられました。

受賞者の皆様、おめでとうございます。更なる活躍を期待しております。

また、若返り祭りには、第6ブロックから能登 正則さん御夫婦が出演。太鼓・笛で曲目「早秋の風」を披露。勇壮な太鼓の響きに会場から大きな拍手が送られました。

お二人には本当にお疲れ様でした。

個人表彰 長谷川玲子（立野地区女性部長）

〃 藤本 哲也（定塚地区会長）

〃 大多 斉二（横田地区会長）

団体表彰

上牧野若葉町長寿部（会長）

酒井 榮治

井口本江友栄会（会長）

篠井 弘道



個人表彰受賞者の皆さん
前列中央 長谷川玲子さん
後列左から 大多斉二さん
藤本哲也さん

◆令和元年度 単位クラブ会長研修会

日時 令和元年十一月十四日(木)
場所 くつろぎの宿 うみあかり
参加者 単位クラブ会長 百六十八名

肌寒い小雨模様の一日となりましたが、百六十八名の単位クラブ会長が集まり、研修会に臨みました。

はじめに、第四ブロック（戸出西地区）、夏住寿会の大能 秀嗣会長より単位クラブの活動報告がなされました。

（大能会長の発表内容は



法話中の圓山住職

P九を参照願います）

続いて、浄土真宗

本願寺派 法順寺 住

職の圓山 望様より

「あなたはどんな生命を生きていますか」と題した講演を拝聴しました。参加者からは、「これまで聞いた法話の中で、一番胸にストンと入った」との感想が多く寄せられました。圓山住職に感謝、合掌

その後、懇親会が行われ、会長同士が親睦を深め、大盛会のうちに終了しました。



熱心に聞き入る参加者

文化教養委員会事業報告

委員長 藤本 哲也

◆「高岡市高齢者趣味の作品展」

日時 令和元年十月三日(木)～四日(金)
場所 高岡市ふれあい福祉センター
一階及び二階エントランスホール

本年も多くの皆さんの作品が出品されました。この内、二十二作品が県大会に出品されました。

中には、百歳の方の出品もあり、鑑賞された方々から驚きの声があがっていました。来年度は展示スペースを拡大しますので、少しでも多くの方に自信作の出品をお願いします。

【年度別出品数の推移】

年 度	出品数
平成 26 年	109
平成 27 年	97
平成 28 年	93
平成 29 年	71
平成 30 年	58
令和 元年	51



出品作品の数々
(於：ふれあい福祉センター)

体育振興委員会事業報告

委員長 山田 孝雄

◆ペタンク大会

日時 令和元年九月二日(月)
場所 高岡スポーツコア 多目的広場
参加者 百八十名

あいにくの小雨模様となりましたが、百八十名が、熱戦を展開。皆さん、日頃の鍛錬の成果を発揮されていました。特に決勝戦は手に汗握る白熱戦となりました。来年も素晴らしい試合を期待しています。



真剣に競技する選手

△成績▽

優勝 福岡Aチーム

(林 弘、吉田 信子、中山 久美子)

準優勝 黒田新町Dチーム

(高橋 勇昭、畑 悦郎、寺嶋 克善)

三位 黒田新町Aチーム

(塩谷 龍男、秋野 光広、小川 隆)

敢闘賞 赤丸Bチーム

(神白 正敏、神白レイ子、池田和紀子)

◆第十二回パークゴルフ大会

日時 令和元年九月十二日(木)

場所 高岡市スポーツ健康センター

参加者 百十九名

晴天に恵まれ、受付時間前から多くの選手が集合。日頃の技を競いつつ、心地よい汗を流しました。

△成績▽

【男性の部】

優勝 伊東伊佐雄(東五位)

準優勝 西田 隆(西条)

三位 浜木 哲男(福岡)

【女性の部】

優勝 村西 律子(牧野)

準優勝 神谷ミオ子(福岡)

三位 高田 澄子(中田)

◆スポレク高岡シャフルボード大会

日時 令和元年九月二十五日(水)

場所 高岡市ふれあい福祉センター

体育館

参加者 九十五名

高岡市体育協会主催のスポレク2019のスポーツ行事の一環として開催されました。

△成績▽

【午前の部】

優勝 石瀬 哲夫(福田)

準優勝 宮崎 清文(佐野)

三位 信濃恵美子(成美)

〃 林 敏子(佐野)

【午後の部】

優勝 黒木 嘉子(二上)

準優勝 渡辺 幹雄(小勢)

三位 桃井 孝(守山)

〃 崎 兵吉(二上)



ナイスショット！

◆第十四回高岡市高齢者体育祭

日時 令和元年十月十八日(金)

場所 東洋通信スポーツセンター

参加者 約二二〇〇名

(内、選手七〇〇名)

高齢者の健康保持と生きがいを高めるための体育大会を実施し、健やかな高齢者社会を作ることが目的に開催。選手をはじめ、多くの大会役員、応援団に支えられ、盛大に実施されました。

女性の皆さんによるフォークダンスが大会に一層の花を添えました。競技では、各々自ブロッ



どんなもんだ！

クの勝利の為に懸命に戦う姿が微笑ましかったです。皆さん、怪我も無く終了出来て良かったです。来年度も頑張りましょう。

△総合成績▽

- 一位 紫チーム第七ブロック
(福岡・山王・大滝・西五位・赤丸・五位山)
二位 赤チーム第一ブロック
(成美・二上・守山・能町・牧野)
三位 緑チーム第六ブロック
(横田・西条・石堤・国吉)



球が言う事を聞かんなあ！



慎重に！ 慎重に！



ボールをよく見て

抜けるような青空の下、151名の選手による団体戦・個人戦が戦われました。整備の行きとどいた会場で、日頃の技を發揮。ホールインワン賞が44本でるなど、ハイレベルな戦いとなりました。

△成績▽

- 【団体の部】
優勝 川原チーム
(武部、横田、橋爪)
準優勝 博労Bチーム
(岩瀬、沢田、桶谷)
三位 矢田Aチーム
(元井、織田、和泉)
【個人の部・男性】
優勝 笹村 憲一 (西条)
準優勝 笠間佐一郎 (国吉)
三位 石黒 喜信 (国吉)
【個人の部・女性】
優勝 中谷 悦子 (国吉)
準優勝 深沢 フミ (木津)
三位 桶谷貴美子 (博労)

◆第十五回グラウンドゴルフ大会

日時 令和元年十月三十日(水)
場所 高岡市グラウンドゴルフ場
参加者 一五一名

◆カローリング大会

開催日 令和元年十二月四日(水)
場所 福岡総合文化センター(Uホール)
参加者 三十チーム 九十名



雨模様の寒い日となりましたが、皆さん元氣一杯プレーを楽しみました。

【成績】

- 優勝 里山クラブAチーム
(高橋 守勝、清水 成子、清水 豊二)
準優勝 中田Bチーム
(高田 豊、高田 正美、長森 進)
三位 福岡Cチーム
(大塚 紀子、大島 勇、村井 武)
飛び賞
五位 福岡Aチーム
(尾崎美智子、窪田 幸子、田畑 福正)
十位 中田Cチーム
(堺谷 一美、南穂子、松原 洋子)
十五位 横田Cチーム
(山元 洋子、河原 政治、東明 博)
二十位 福田Bチーム
(石田 保、吉岡 弘、津田 敏雄)
二十五位 西五位チーム
(沢田 宏、伊瀬 くに、山田 愛子)
B・B賞 下関Dチーム
(前田 賢吉、吉田 堯、跡地 孝吉)



一球入魂

女性委員会事業報告

委員長 浅田 清美

女性委員会 張り切って活動しています！

「地域料理伝承教室」開催

開催日	令和元年11月11日（月）
場 所	高岡市ふれあい福祉センター調理実習室
参加者	女性委員31名、栄養士2名、食生活改善推進員7名他、計42名。
趣 旨	地域文化の伝承及び高齢者の健康づくりに資することを目的として、県老連女性委員会20周年記念事業で作成したレシピ本「おばあちゃんからの贈り物」を活用した料理伝承教室を開催したもの。
調理感想	高血圧、高脂質、高カロリーの食生活は、成人病の原因として社会問題となっている中で、今回の料理は、減塩、減脂メニューで、健康の維持・増進に資する料理を試作しました。栄養士の指導を仰ぎながら、減塩・減脂の物足りなさを、味付けでカバーする工夫をしました。試食していただいた皆さんからは、非常においしいと好評を博しました。今後とも、健康長寿に資する食事の開発と普及に取り組んでいきます。

メニュー

- ・かぶのやっちら
- ・鶏肉と絹さやの卵とじ
- ・豆腐のスープ煮
- ・梅ヨーグルト
- ・ご飯



ブロック行事リレー紹介

(第2ブロック) 第38回芸能大会開催

実行委員長 下関地区会長 跡地 孝吉

日 時 令和元年11月1日(金) 午後1時30分開演

場 所 高岡市東部老人福祉センター

参加者 120名

令和元年11月1日(金)、高岡市東部老人福祉センターにて開催されました。深みゆく晩秋を飾るにふさわしい大会となりました。それぞれが、日頃から熱心に研鑽された芸の道。振付の中にナレーションに代わる工夫を取り入れ、満員の観客席が一体となり盛り上がりました。各場面に感動した芸能大会、過ぎゆく秋のひとときを楽しみました。

(レポーター：跡地)

<プログラム>

順番	地区	種目	演題
1	定塚	新 舞 踊	粋な恋さん
2	下関	三 味 線	お座付三下りチンチリレン
3	平米	詩 吟	郷愁の五箇山
4	野村	民 舞 踊	祝宴(うたげ)
5	定塚	カ ラ オ ケ	恋ッ津軽
6	下関	民 舞	はぐれコキリコ
7	下関	弾 き 語 り	好きになった人
8	野村	合 唱	里の秋・天竜流し
9	定塚	民 謡	岡崎五万石
10	下関	民 舞	人生かくれんぼ
11	平米	合 唱	村祭・命の歌
12	野村	詩 吟	九月十三夜陣中の作
13	定塚	カ ラ オ ケ	望郷山河
14	下関	民 舞	関東春雨傘
15	野村	カ ラ オ ケ	女の一生～汗の恋～
16	定塚	新 舞 踊	椿の咲く湊
17	下関	カ ラ オ ケ	憧れのハワイ航路、他
18	平米	大 正 琴	君といつまでも、他
19	野村	民 謡	千代の松竹梅



報告



令和元年度・単位クラブ活動報告

第4ブロック（戸出西地区）

夏住寿会・会長 大能 秀嗣

始めに、夏住とは聞きなれない地だと思いますので、少しふれさせて頂きます。

夏住は、庄川の支流西新又川の下流左岸に位置していますが、遠き昔、村一帯は、過去より庄川の前進である新又川の氾濫原があり、川原や沢がたくさんあった荒地でした。川の水が少ない夏から秋にかけて川原の開墾のために、小屋がけして寝泊りして働き、冬には帰って行きました。夏の間居住して村立したという意味で、夏住と称したとされています。明治十二・三年頃から、北海道への開拓移住者が多く、後に隣接する六ヶ新と合併し今日に至っていますが、三十六軒の小さな集落です。

戸出町史によれば、老人相互の親睦と自らの生活向上を図るために、老人クラブの組織が最寄りの地域ごとに、昭和二十八年七月ごろからつくられたとあります。昭和四十五年度に26クラブ、1022人が参加し、親睦会や慰安旅行や修養会等を開催し、また除草などの奉仕活動も行っています。町老人クラブ連合会は、昭和

和四十五年四月より、年十九回、20時間以上の和光学級を開設して、老人の知徳の向上と修養に努めています。

このような動きのなか夏住においては、大戦における戦没者が多かった事、又笠どころとして笠骨と菅笠作りや乳牛飼育等を副業とする家が多く、公職の方もいて理解者が少なく、後に述べます醍醐の動きに少数ながら追従したようです。

夏住寿会、数え年六〇で了解を得て、年会費千円にて会員になって頂きますが、数え年八〇になれば免除になります。年会費と自治会からの助成金そして、必要に応じた会費にて運営にあたります。その活動は先輩の方々から受け継ぎ、今や恒例になっていますが、七月半ばの日曜日に開催する教刺講・地藏祭・物故者追悼法要で、前は3件別々に施行されていましたが、現在は同日に行っています。本年度は、亡くなられた方がなく教刺講・地藏祭そして、法話を勤めました。十月下旬には、一泊二日のバス親善旅行を行っており、今年は志賀の郷温泉「い



発表される大能秀嗣会長

こいの村能登半島」にて、19名の参加のもとに親睦をはかりました。奉仕活動として、夏住墓地の川沿いの草刈りを行っております。又、醍醐寿会の事業にも積極的に参加しておりますが、夏住寿会にとつては、醍醐寿会の存在が不可欠ですので、以下述べさせて頂きます。

醍醐は横越上、横越下、油屋、今庄、須田、後正寺、夏住の7地区（旧・醍醐小学校校下）で構成されていますが、醍醐寿会は油屋と今庄で1単位、須田と後正寺で1単位、そして各地区が各々の1単位で計5単位の老人クラブです。備忘録によれば、昭和五十九年八月十九日に須田の長念寺にて醍醐寿会会長故・山中永之作さんの時に追悼会を勤められて、又、故・尾西信長さんの書による昭和四十年以降に亡くなられた会員の法名と俗名を記す合幅法名軸も、この頃に作成されたと推測されます。六十一年には役員改選があり、戸出町老人クラブに参加し、醍醐会館周辺の草刈り、一泊の役員研修も行っています。

平成二十一年度高嶋一正会長時には、醍醐寿会スポーツ部会の設立があり、ベタंकのみですが、今も継続し各種大会への選手の派遣を行い、又独自に春・秋の大会を催しその運営にあたっています。

醍醐寿会の事業は、過去のを踏襲する部分が多いですが、六月の第一土曜日に奉仕活動として、醍醐館周辺の草刈及び清掃を行います。

又六月に一泊二日のバスにての醍醐寿会親善旅行で会員の親睦をはかります。今年も、四十四名の参加を得て、大阪・平和の塔や京都・大原三千院を見学し、湯の花温泉にて語り合いました。毎年八月十九日には、醍醐寿会物故者追悼法要を醍醐にある2寺院を交互に場所を代えて勤めますが、本年度は善行寺にて、七名のご遺族をお招きしその法名軸と前述の合幅法名軸を掲げ、勤めました。又、戸出・中田地区老人クラブ親善体育祭や高岡市老人クラブ連合会の高齢者体育祭への選手派遣もおこなっています。当地において、老人クラブへの入会はしていただきませんが、行事等への参加の方が限られるのが現状です。

老人クラブを立ち上げられた方々に敬意を表します。

随想

風車(9)

なぜ人工知能AIは産業革命を上回るのか

大滝地区

荒屋敷老人クラブ 中谷 正昭

明けましておめでとう御座います。今年はオリンピックの年であり久しぶりの東京大会であ



る。それぞれ、人にとってスポーツの思い出がある年でもある。私にとってはスポーツはソクラテスの言う「知識」を実践する場であった。

最近ポピュリズム(大衆迎合主義)とかフューチャ・デザイン(将来世代を取り込む制度設計)とか人工知能AI(コンピューターに人間のような高度な知能をもたせること)など色々な言葉が表現されてきている。今回は人工知能AIについて少し提言したい。

AIは自然界を数学的理論に、足し算・かけ算による正則構造に統計学を集計し、コンピューターに入力して推論をしたのが始まりである。松原 仁・東大工学博士はAIの第一回ブームは「推論」で、第二回ブームは「知識」であり、第三回は「学習」(ディープラーニング)で現在も研究されている。

今後はRPA(Robotic Process Automation)による事務作業の自動化により産業革命を上まわると言われ

「AIを制するものは世界を制する」と提言されている。

特に、老人に関係がないかと思いがちであるが、世界一認知症病が多い日本である。認知症の原因となるタンパク質は神経伝達にどう影響を与えるかを電気磁気力を応用した量子コンピューターを活用し、AIの研究からうまれる。

たとえば、人間の目の細胞は量子レベルである光子を捉え、それを増幅して脳に伝え、人間はモノを見ることができ、このことが、認知症予防に応用できる。

新しい年明け



五位山地区

西明寺長寿会

山本 勝

四十戸に満たないささやかな営みの部落にも、静かに新年が明けようとしている。

一月一日、年明けは例年村宮で行われる「元旦祭」でスタートする。部落にとっても氏子にも、災いのない穏やかな一年であるよう神に祈る大事な行事のひとつ。

だから回り番で担当する宮当番にはいろいろな準備に寝正月とはいかない。手始めは参拝者のために参道の除雪から。雪国の宿命、案の定、

元旦は雪になった。早朝からの除雪は、長い参道をスコップに雪の感触を確かめながら小一時間が終わった。

うつすら汗をかいての作業はむしろ清々しい。

「初仕事 村宮^{みや}の参道 雪除かし」

そのあと神主さんにおいて頂き、奥社殿に神様をお迎えし、元旦祭の準備が整う。

この一年災難が起きないよう、天地がつつがなく治まるようにと神に願う神主の祝詞を聞く氏子の神妙な顔が並ぶ。

そしてこの元旦祭にはもう一つ大切な神事がある。厄払いの神事。

その年の厄男から災厄を振り払っていただくよう、神にお願いするもの。

その年それぞれ二十五才、四十二才、六十一才になる男。どうしてこの年齢が厄年と言われるのか知らないが、二十五才はプロ野球チームに入団した新人選手の発表会のように、ファン(氏子)に仲間入りよろしくと、挨拶しているように見えるし、四十二才はこれから部落、地域の中核を担っていくぞと決意をしているように思え、六十一才(還暦)は背中に「老い」を漂わせながらも人口減少、労働力不足という今の日本にあつて、これから社会のため活躍してほしい、働いてくださいという期待にしっかりと応えるぞと、神前に座っているのだと思える。それはこれから戦に出て発つ凛々しい若武者にも見える。

「還暦も 若武者になる 元旦祭」
武者達に災い無きを。

厄払い神事が終わると待ち切れないように二十五才君が立ち上がった、がそのとたん体ふらふら足元がよろついて「ドスン」と頭から前へつんのめった。

慣れない正座に足がしびれて我慢できなくなつたのか、元旦の神前で無様を披露した。

みんなの哄笑の中で・・・しかし、かえってその場が和やかになった。

「青白き 類して征くか 若き者」
二十五才頑張れ。

元旦の椿事を肴に御神酒を汲み交わす、ほのぼの元旦祭である。

うおの目信仰



赤丸地区

長寿会

石川 正一

一九四七年(昭和二十三年)の冬、私はいわゆるソビエト連邦の捕虜として、極東ロシア沿海地区の雪深いラーゲリにいた。

そこでの労役はシベリア五葉松をはじめとする樹木の伐採であつた。

伐採作業はいうまでもなく重労働である。ソ連領内に入った最初の冬は、不慣れな作業と劣悪な食糧事情のため捕虜たちは急速に衰弱していった。

捕虜たちが原隊から持ち込んだ糧秣はいつか底をつき、ソ連側のそれは燕麥粉の黒パン、大豆粉のすいとんが二ヶ月も続いていた。動物性蛋白は不足していたにちがいない。そのためか鳥目(夜盲症)になやむ兵たちが出はじめ、私もそのなかの一人であつた。

私の記憶に残る症状は、日没と同時に両目の前に白いカーテンが吊り下げられたような感じである。野外の屋根のない便所に行くのも大変なことだったが若かったからなるべく行かないようにしていた。

その夜盲症がある日、突然癒つたのである。

それは、まさに、二ヶ月あまり続いていた、塩鯉の切り身が、「尾頭付き」の鯉に変つて小ぶりだったので調理の必要がなく炊事からは、そのまま、兵たちに配られた。私たちは当然のように、頭から目玉ごと食べた。効果は、鰓面^{てんめん}、夜盲症はたちどころに癒つたのである。

それ以来、私は、鮮魚であれ、塩干魚であれ、目玉ごと食べて七〇年ちかくにもなる。

余命いくばくもない私だが歯の耐える限り魚の目を食べ、目玉を提供してくれた彼ら、魚た

ちに感謝の念を捧げたい。
うおの目信仰の由縁である。



美しい涙

下関地区

関本町松栄会 中谷 静子

最近日常的に涙が滲むような事象が非情に多くて困ります。それは天災時や事件・事故等により犠牲になられた人の記事に触れた時の涙であり、親子の間でありながら、わが子を不義の虐待死に至らしめてしまった無慈悲な記事への憤りと、どんなにか無念であったであろう犠牲になった幼子への哀憐の涙であります。

又、日常の身近な人との会話の中でも喜びの場面や憤慨の場面で胸が詰まる事がよくあります。例えば、スポーツ選手が日頃の血の滲む思いで紡いだ努力の集大成として勝利を手にした時の涙は本当に清々しく、全身が感動に包まれる思いがいたします。

又、善戦空しく勝利を逃がした時には質は違ってもその涙には、選手を包み込んで上げたいような同情の涙が溢れます。

特に毎年、箱根路で繰り広げられる元旦駅伝マラソンには多くの感動を頂きます、体力の限界に挑み、次々たすきを渡して倒れ込む選手を支える仲間たちの様は本当に清々しく、迫真の絵

巻を見る思いで感動の涙が込み上げて参ります。また夏の甲子園で繰り広げられる高校球児の活躍には多くの感動を頂き、感涙に咽ぶ場面は数えきれません。

人は加齢により涙腺が「弱くなつて」とよく聞きますが、それはもつと言うなら加齢により、現役世代から解放されて、他人の悲惨、喜びに「反応する余裕が心に出来たからであろう。」と私は思います。

本当に悲しい時、苦しい時には涙も出ないとよく言われます。その意味で今この年代で流す涙は「美しい涙」「余裕の涙」と位置付けられると考えるのは滑稽でしょうか？

高齢者の健康寿命を延ばす為には足腰の運動は勿論大事、そして手っ取り早く感情を高めてくれるお笑い番組や、ただで見られるスポーツ番組にも関心を持って「美しい涙」を流す事の出来る精神健康を保ち「明るく元気で」お荷物にならないお年寄りを目指して今年も一年頑張ろうではありませんか。



漢詩



下関地区

前田町梅寿会

跡地 孝吉

福井・永平寺に道元禪師を訪ねて
中国天童寺を想う

仄記式陽韻

雲水道元難苦行

禪扉巨柱語星霜

四天微笑守三像

朗々看經響石牀

※押韻 行・霜・牀

曹洞宗開祖道元が難苦行したところ
禅内の扉や巨大な柱はこの寺の長い歴史を
物語っている

持国天（東方）増長天（南）広目天（西）
多聞天（北）（羅生門天）の四天王が、
笑顔で三尊像を警護している

朗々たる読経の声が石だたみにひびいてい
る

俳句

成美地区 南山会

開発 清二

おのが影ふりはなさんとあれば独楽

人さり賀状それぞれ言葉発す

灯ともれば人もはなやぎ雪祭

平米地区 松和会

小野田 洋子

四世代生き抜き令和の秋爽やか

秋麗の古城に響く万葉歌

煤払い終えし佛間に父母の声

平米地区 渌寿会

作道 璃千子

羽子板は母の選びし三番叟

読みかけのページに挟む種袋

潮吹いて鍋の浅蜷が海を恋う

下関地区 南田町長栄会

牧長 幸子

秋寂や蔵の中なる赤絵皿

名水の音高くあり赤とんぼ

月の冷え瀬音の冷えの澄みわたり

大滝地区 本領クラブ

土倉 武男

さようなら振りむかないで泣けるから

手を振ってしばしの別れ夜の駅

別れ妻すぎて見返りや目が合った

川柳

北老協川柳会



伏木地区 国谷 洋子 選

開港の栄華を語る沖仲仕

串橋 稔

拉致悔し望み一途の半世紀

村田 マリ子

できぬ子に望みを掛ける親の見栄

村上 芳雄

幸せは残り火燃やす夫婦愛

西 英子

十八の笑い転げて箸おちる

嶋村 千代松

碁石打ちしじまを破る茶のすすり

村田 千恵子

打ちくたく波は男の冬の海

竹原 ひろ子

潮騒が海鳴りとなる恋心

針山 康雄

孫元氣笑顔千金國育つ

山口 徹郎

良かったな掃除洗濯すきな嫁

古木 彰

横文字に時代おくれが立ち止まる

堀 あつ子

朝一番笑顔交わして今日も吉

佐野 澄枝

海鳴りを遠くに聞いて残す悔い

一宮 郁代

初孫の笑顔に福がまいあがる

国谷 洋子

海鳴りを枕に酒を交わす夜

古川 政章

年末の笑顔届けに来たサンタ

田村 武

和筆笥の母の時代を捨てきれず

六反 日出緒

前句

大滝地区 大滝クラブ 堂田 笑峰

「人柄が滲み出ている手書き文字」最後となった恩師の賀状

「正直なこと正直なこと」手術して眼鏡不用の針仕事

笠 体力がおとろえ愚痴が増えてきた

大滝地区 大滝クラブ 田中 睦風

「人柄が滲み出ている手書き文字」心を込めてあなたに送る

笠 体力と気力で人生乗り越えた

沓 ホクホクの 焼イモくるむ 新聞紙

大滝地区 開群クラブ 中川 笑雄

「人柄が滲み出ている手書き文字」作品を見れば作者がわかる

「正直なこと正直なこと」交渉に駆け引きなしの体当たり

天地「夢」ゆるやかな眠りの中に涙ため

山王地区 一歩二歩長寿会 米澤 恵秋

「人柄が滲み出ている手書き文字」カナクギながら丸みでてきた

笠 体力が年ほどなのに見栄はった

沓 斜め読み後は包みに新聞紙

大滝地区 大滝クラブ 田中 Q

「正直なこと正直なこと」君だけに心許して打ちあけた

笠 体力が昔に比べ衰えた

天地「夢」雄大な希望を胸に朝目覚め



大滝地区 木舟新クラブ 稲垣 邦子

「人柄が滲み出ている手書き文字」花の便りが友から届き

笠 体力を気にしながらも参加した

越 すすめられ調子にのって二日酔い

福岡地区 福岡一区長寿会 梅原 喜代治

「人柄が滲み出ている手書き文字」品の良い句を短冊に詠む

「正直なこと正直なこと」融通のきかない夫と友白髪

天地「夢」許し合う抱かれて嬉し涙雨

木津地区 星寿会 木間 美也子

笠 体力の落ち込む老いを思いやる

越 ストレッチ調子にのって腰痛め

沓 シニアには愛着ふかし新聞紙

西条地区 波岡豊友会 山口 豊治

「人柄が滲み出ている手書き文字」新玉に気を締め直し年賀状

笠 体力がどうにも成らぬ老いにけり

越 ジョギングを調子にのって息切れる

大滝地区 本領クラブ 土倉 武勇

「人柄が滲み出ている手書き文字」何時も今でも案ずる便り

越 上手やな調子にのってこれも見て

沓 お返しを慌てて包む新聞紙

大滝地区 木舟新クラブ 藤村 信子

「人柄が滲み出ている手書き文字」繰り返し読み温もり仰ぐ

天地「夢」ゆさぶられ寝言中断老い目覚め

沓 関心の記事保存する新聞紙

西五位地区 向田クラブ

向井 崇嘉

笠 体力がエアコン様に救われた

折「映画」笑顔寄せいい席探し彼と観た

越 褒め言葉調子にのって恥晒す

大滝地区 荒屋敷クラブ

松川 笑多

「人柄が滲み出ている手書き文字」令和の筆におのれ励ます

笠 体力が夢と情熱勝負する

沓 あさ一番取りあい出来る新聞紙

山王地区 上・簗島クラブ

太田 満知子

「人柄が滲み出ている手書き文字」ユーモア盛り込み安否確認

「正直なこと正直なこと」言ってはダメ言われたといい話す孫

笠 体力が日頃の訓練発揮した

木津地区 星寿会

土田 由朗

天地「夢」友人と寝過ぐす雑魚寝やとさめ

折「映画」描き出す今井正の頑固なる

沓 剣よりも弱気ペンなる新聞紙

西五位地区 三日市クラブ

木村 重明

「人柄が滲み出ている手書き文字」もらって嬉しい親しみ沸いた

越 るるんと調子にのってずこけた

沓 ありがとうあなたのお蔭新聞紙

西五位地区 西五位三区クラブ

地崎 愛子

「人柄が滲み出ている手書き文字」お蔭様だと友からの文

笠 体力が新米袋持ち上げた

越 勝負ごと調子にのって火傷した

大滝地区 大滝クラブ

荒田 遊月

「人柄が滲み出ている手書き文字」思わず浮かぶ懐かし部活

笠 体力は何より宝励みけり

沓 毅然たる凜凜と報道新聞紙

戸出地区 若葉会

古澤 澄子

「正直なこと正直なこと」人間にあるべき信じ生きて来た

天地「夢」ゆりかごに寝ながら笑う曾孫むすめ

沓 リサイクルにと仕舞い置く新聞紙

木津地区 星寿会

竹田 直治

「正直なこと正直なこと」本音まで口滑らせて誤解され

天地「夢」ゆったりと老いを楽しむことに決め

折「映画」永遠に生き生き写す寛寿郎

西条地区 波岡豊友会

山口 康子

「正直なこと正直なこと」帰り道五円ひらって交番に

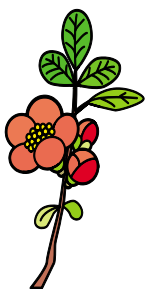
天地「夢」昨夜^{ゆうべ}みた父母言うに我のため

沓 ナイロンの袋駄目なら新聞紙

西五位地区 三日市クラブ

笠嶋 祥子(吉祥)

「正直なこと正直なこと」マネキンのようにはなれぬ試着室



「高岡市老連だより次回発行のお知らせ」

令和二年度（令和二年四月）より、「市老連だより」の発行月と内容が変更になります。発行月は五月と十一月となり、次回発行は令和二年五月となります。

内容の変更は、**五月発行分**は八ページ立てとし、「定期総会」の模様、委員会の活動状況、特色ある単位クラブの活動状況を詳細に掲載します。各单位クラブ・ブロックで芸能祭、講演会、訪問活動、奉仕活動等を展開されていると思いますが、「他地区の会員の皆様にこれは伝えたい、知らせたい」とお考えのクラブにおかれましては、写真を添えてどしどし投稿をお願いします。特に、写真を多用したいと考えていますので、できるだけ多くの写真をご提供願います。

締め切り 令和二年四月末まで、市老連事務局必着

十一月発行分は十六ページ立てで、各種スポーツ行事・老人クラブ大会の様子、趣味の作品展の状況、随想・短歌・俳句・前句・川柳・漢詩等を集中掲載します。**随想・短歌・俳句・前句等は、五月発行分には掲載されません**ので留意願います。（締め切り、前句の出題句は、五月発行分でご案内します）

編集後記

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えると、月日の経つのは早いと誰もが（特に私を含めて高齢者の方？）感じられると思います。

新年号になって早二年目、筆者はこの調子で行けば、我が身もあの世はそう遠くないと思う今日この頃です。皆様方はいかがでしょう。か。「なんだ？正月早々縁起でもない事を言っただけじゃねーよ。」とお叱りを受けるかも知れません。ごもっともです、申し訳ございません。

ただ、昔の人も老いた時に感じたのか、皆さんご存知のあの有名な一休さん（一休禪師）が次の一句を残しました。

「正月は冥土の旅の一里塚」

どうでしょうか。その通り何も言うことありません。

しかし、こういう事をいつも考えていては、とてもじゃないけど毎日を送ってられません。身が持ちません。「明日のことは分らない」のでいいのではないのでしょうか。

まずは健康第一で日々を明るく、楽しく過ごしていきましょう。

会員皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

次にお知らせです。

「市老連だより」次号より新しいカタチで発行することとなりました。

1、発行月の変更

2、掲載記事などの構成見直し

ご期待ください！

文化教養委員会・委員長 藤本 哲也